



Tokyo Midtown Award 2015 News Letter vol.2

いよいよデザインコンペの締切迫る！

～今年のテーマは「おもてなし」～

募集期間 6月26日(金)～7月27日(月)必着

～アートコンペは2次審査へ～

東京ミッドタウン(事業者代表 三井不動産株式会社)は、次世代を担うアーティストやデザイナーの発掘・応援を目的とした「Tokyo Midtown Award 2015」を、<アートコンペ>と<デザインコンペ>の2部門で開催しています。開業以来、東京ミッドタウンは『“JAPAN VALUE(新しい日本の価値・感性・才能)”を創造・結集し、世界に発信し続ける街』をコンセプトに街づくりを進めてきました。「Tokyo Midtown Award」は、その一環として2008年より毎年開催しているアートとデザインのコンペティションで、今回で8回目の開催となります。

本ニュースレターでは、6月26日(金)から募集を開始したデザインコンペについて、また、先日1次審査を終了したアートコンペについての速報、昨年から開催しているイベント「MID DAY」についての様子をお知らせいたします。

Tokyo Midtown Awardは前回までに、述べ約1万組の若い才能がチャレンジし、アートコンペでは33組、デザインコンペでは61組の受賞者が生まれ、商品化など夢への一歩を踏み出しています。

目次

1. Tokyo Midtown Award 2015 募集速報
 - ①デザインコンペがいよいよ締切間近！
 - ②アートコンペの1次審査終了！2次審査へ進んだのは12名
2. 7月2日は「一年のまん中の日」。今年も「MID DAY」開催！
ますます盛り上がりを見せるデザインコンペ

◆ Tokyo Midtown Award 2015 募集速報

①デザインコンペ:6月26日(金)から募集中！今年のテーマは「おもてなし」

デザインコンペは、「おもてなし」をテーマとし、日本の伝統ともいえる美しい心づかいが感じられる作品を募集しています。今回初めて、グランプリ受賞者を世界の優れたデザインが一堂に会する「ミラノサローネ」開催中にイタリア・ミラノへ招待し、最先端のデザインをご覧ください機会を設けます。

デザインコンペでグランプリを受賞した作品「MID DAY」を、東京ミッドタウンでイベントとして開催するなど、受賞者への積極的な支援を行っていることも本コンペの特徴です。これまでに8作品が商品化され、「歌舞伎フェイスパック」や「富士山グラス」などヒット商品が登場しています。



※昨年の審査の様子

審査の流れ

作品募集

6/26(金)～7/27(月)
テーマ「おもてなし」

書類審査

8/10(月)
提出書類を審査

意匠権調査

8月下旬

発表・授賞式

10/16(金)開催
東京ミッドタウンに作品を展示

<デザインコンペ 募集概要>

募集期間	6月26日(金)～7月27日(月)必着
テーマ	おもてなし
賞金	グランプリ(1点)100万円、準グランプリ(1点)50万円、優秀賞(1点)30万円 審査員特別賞(5点)各5万円
副賞	グランプリ受賞者を「ミラノサローネ」開催中にイタリア・ミラノへご招待
審査員	小山 薫堂、佐藤 卓、柴田 文江、原 研哉、水野 学

※詳細はオフィシャルサイト(<http://www.tokyo-midtown.com/jp/award/>)をご参照ください。

◆ Tokyo Midtown Award 2015 募集速報

②アートコンペ:1次審査を終了～250組の応募から2次審査に進んだのは12名～

今年もテーマを設けず、都心の複合施設である「東京ミッドタウン」に展示するサイトスペシフィックな作品を募集したアートコンペ。自由度が高く、また多くの来街者に作品を見てもらえるチャンスでもあるアートコンペには、昨年よりも切が早いなか、250組の応募がありました。

6月15日(月)に行われた書類による1次審査では、インスタレーションや彫刻、写真、絵画、テキスタイルなどの多彩な提案から審査員が12名を選定しました。昨年初めてテキスタイルの作家が入賞したことで、例年よりもテキスタイルの応募が増えました。

この後の2次審査では、応募者による公開プレゼンテーション及び模型審査を行い、最終審査に進む6作品を決定します。各審査には、アートコンペ審査員5名全員が参加します。入選作品を選ぶだけでなく、結果的に落選となってしまう応募者にも、よりよい作品への“ヒントを与える”審査となり、「Tokyo Midtown Award」が“育成型コンペ”たる所以とも言える審査会です。

2次審査は、事前にウェブ(<http://www.tokyo-midtown.com/jp/award/>)でお申し込みいただいた一般の方もご見学いただけるほか、報道関係者の皆様にも公開いたしますので、取材をご希望の方は事前にご連絡ください。



1次審査を終えて

【審査員・中山ダイスケ氏 アーティスト／東北芸術工科大学教授】

例年よりも若いアーティストの応募が多いのではと感じています。テーマが「自由」になって2年目を迎え、より内容にも自由度が増してきたことを実感できました。その分、きつとこの先の審査は難しいのではないかと思います。また、全作品の中から各審査員がそれぞれ選出したものが、例年以上に重なったと思います。ジャンルや専門分野が異なるけれども、期待感を共有できているので、このままいい作家・作品を選出したいです。

◆ News Tokyo Midtown Award アートコンペ過去受賞者の活動

東京ミッドタウンの恒例の夏イベント「MIDTOWN ♥ SUMMER(ミッドタウン ラブズ サマー)」。
今年もこのイベントの中でお子さまを対象にした「なつやすみ キッズが楽しむミッドタウン」を開催します。
8月8日から約1週間にわたり、アートやデザインをテーマにしたワークショップが開催されるなか、昨年のアートコンペ受賞者、小林万里子さんが講師として登場いたします。

●いろいろな素材でコラージュしよう！金魚ポストカードづくり

【開催日】 2015年8月8日(土) 【会場】 東京ミッドタウン アトリウム
【講師】 小林 万里子
【参加費】 無料



小林 万里子
テキスタイル作家

大阪府生まれ、埼玉県在住
Tokyo Midtown Award 2014 アートコンペ入賞
多摩美術大学大学院修士前期課程 デザイン専攻テキスタイル研究
領域修了。2015年春に行われた「六本木アートナイト」でのワークショップは延べ190人が参加した。



布や和紙やセロファンを切ったり貼ったりして、楽しい金魚ポストカードを作ります。窓辺に飾ってもとても綺麗です。(画像はイメージ)

◆ 商品化でますます盛り上がりを見せる、デザインコンペ

今年も開催した、“一年のまん中の日”「MID DAY」

作品の商品化・具現化へのサポートを盛んに行っている、「Tokyo Midtown Award」。2013年グランプリを受賞した本作品に実現の場を提供し、昨年、東京ミッドタウンで初の「MID DAY」を開催いたしました。

今年“一年のまん中の日”は「自分にご褒美をあげる日」として「“MID DAY”WEEK」を開催。昨年も好評だった柴田文江さん考案の「MID DAY Ribbon」はこれまでの半年を振り返り、これからの半年の目標や祈願を約2,000本のカラフルなリボンに綴って芝生広場の「MID DAY」の巨大ロゴに結んでいただきました。想いが書き込まれたリボンは、イベント終了後に神社に奉納の予定です。



▲清掃員が窓に「HAPPY MID DAY」と洗剤で描いたサプライズイベント



▲半年過ごした想いをリボンに書いて結んでいただく「MID DAY Ribbon」



▲7/2のMID DAY当日を祝い、館内で生演奏。お客さまが足を止めて楽しみました

同じくTokyo Midtown Awardのデザインコンペ審査員企画として、佐藤卓さんの「〇〇のまん中」を開催。身近なモノや出来事、歴史上の人物などの「まん中」をこぼにしました。あの人の人生のハーフタイムは...!? ゴッホの人生のまんなかは? レインボーのまんなかは? など、答えがわかるとちょっぴり楽しい「まん中」を提案しました。

また、7月2日(木)のMID DAY当日は、清掃員によるサプライズイベントやクラシック演奏などMID DAYをお祝いするイベントを行い、東京ミッドタウンにお越しの方にお楽しみいただきました。

デザインコンペ出身、デザイナーとして活躍を続ける鈴木 啓太さん

デザイナーとして自分の実力を試してみたい、それが応募したきっかけだったという鈴木さん。2008年のデザインコンペで水野学賞を獲った「富士山グラス」は、水野さんの推薦で本格的に商品化に進み、今や30万個以上を出荷した人気商品となっています。



富士山グラス

デザイナーとして転機となった富士山グラス

『Tokyo Midtown Awardがきっかけで「富士山グラス」が商品化され、その後、審査員特別賞を贈っていただいた水野学さんと「THE」を設立しました。「THE」は水野学さんと中川淳さん(中川政七商店)と3人で、世の中の新たな定番となるような「THE」と呼べる商品づくりをモットーに商品開発をしており、今年で4年目。2013年に丸の内のKITTEにショップを出したのを皮切りに、今年は東京ミッドタウンの新店舗 ISETAN SALONEに「THE CORNER@isetan」をオープンしました。思えばずっと東京ミッドタウンと共に歩んでいます。

昨年の「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH」では芝生広場でNHKエデュケーショナルとの作品「涙の椅子」を発表しました。これまであまりやってこなかった大型の作品制作は、アートの世界の人たちからも高い評価をいただきました。』



「THE」グラス



鈴木啓太 Keita Suzuki

PRODUCT DESIGN CENTER、THE/ディレクター&プロダクトデザイナー。1982年愛知県生まれ。幼少の頃より骨董蒐集家の祖父の影響を受け、ものづくりを始める。2006年多摩美術大学を卒業後、(株)NECデザイン、イワサキデザインスタジオを経て、2012年に、PRODUCT DESIGN CENTERを設立。プロダクトデザインを中心に、プランニングからエンジニアリングまでを統合的に行い、家電製品、モビリティ、家具、日用品、アートに至るまで、国内外で様々なプロジェクトを手掛けている。2015年にはフランスで開催された『第9回サンティエヌ国際デザインビエンナーレ 2015(Biennale Internationale Design Saint-Etienne)』に参加している。